

ジュニア大会開催に関わる新型コロナウイルス感染症対策について

稲城市サッカー連盟少年部

基本は11ブロック大会の要項に準ずるが、低学年用ルールを別途設ける。

1. 感染症対策期間は、この感染症対策特別ルールが「大会要項」より優先される。
2. 試合会場(グラウンド及びベンチ)と管理区域(グラウンド周辺)を設定し、試合会場には応援・観戦者の入場は不可とする。(管理区域は会場ごとに定める)
3. 試合会場に入れるのは試合に出場する選手と、2名以上5名以下の指導者及びスタッフのみとする。
ベンチ入り指導者は少年部発行の『ジュニア大会指導者証』を、常時首掛け掲示していなければならない。
4. 低学年大会なので、管理区域に応援・観戦者の入場を認める。但し原則選手1名について応援・観戦者は1名とする。付き添わなければならない未就学児は対象外とするが、未就学児が試合会場に入らないよう、保護者の責任において管理しなければならない。
5. 全選手・ベンチ入り指導者・応援・観戦者及び付き添い未就学児の、大会敷地内に留まる全ての者は、少年部指定の『ジュニア大会参加者名簿』の所定の欄に、氏名と当日会場で検温した体温を記載して、自チームの最初の試合30分前に大会本部に提出し、記載された全員の確認を受けなければならない。
6. 当日会場入りする全ての者は、各個人の『健康チェックシート』に氏名及び個人情報を記載し、過去2週間における起床時の体温や体調及び同居人の様子を記載し、当日の自チーム代表者の確認を受ける。
7. チーム代表者は『健康チェックシート』で過去2週間以内に37.5℃以上が続いた者や、感染症の疑いの有る者を会場入りさせてはならない。医療機関で感染症ではないと診断された者は除く。
8. 当日会場で検温するために各チームは体温計(接触、非接触問わず)を持参する。本部にて非接触式を貸出すことも可能だが、使用後返却時には消毒する。
9. 当日の体温が正規の接触式体温計で37.5℃以上の者は入場することは出来ず、隔離措置されなければならない。非接触式体温(温度)計で37.0℃以上の結果が出た者は、正規の接触式体温計で再検温する。検温結果は接触式体温計の数値を優先する。
10. 『健康チェックシート』は個人情報に記載されているため、各チームの責任において保管しなければならないが、大会後来場者の感染やその疑いの者が発生した場合、サッカー連盟少年部がチームで保管している『健康チェックシート』の提出を求める。その場合の個人情報は少年部もしくは提出先の行政機関の責任で保管することになる。
11. 管理区域内で全ての来場者は、マスク(もしくはフェイスシールド)を必ず着用しなければならない。試合会場において選手や審判は用具チェックの際でもマスク等着用必須で、競技のフィールドでのみマスクを外して競技する。アップの際もマスクを外すこととする。ベンチのスタッフ及び選手も本部運営や本部役員も常にマスクもしくはフェイスシールド着用を必須とする。
12. 各チームは石鹸や消毒液を持参する。管理区域内に入る来場者は全て手洗い・うがい・消毒を行い、会場内では常に他人との距離を保つことを心掛ける。
13. 会場入り後の本部挨拶は無しにする。試合の際の開始と終了の挨拶は、前後左右の距離を取って、主審の合図での一例のみとし、声掛け・握手・ハグ・ハイタッチ・円陣等は禁止とし、指導者同士の挨拶も無しでして、指導者は大声を出しての指示や選手に触れる事を禁ずる。
14. コロナ対策よりも熱中症や雷など、生命の危険度が高いものへの対策を常に優先とする。